



公開講演会

食品がつなく

# アフリカ農村と日本

—フェアトレードで産地は変わるか—

2018年1月27日(土) 14:30~17:00

京都大学稲盛財団記念館3階 大会議室にて

参加無料・申込不要

講演1: チョコレートのフェアトレードと産地への影響

近藤 光 (NPO法人ACE・ガーナプロジェクト・マネジャー)

講演2: コーヒーのフェアトレードと産地の社会制度 —促進する制度/阻害する制度—

辻村英之 (京都大学・教授)

コメンテーター: 鈴木 紀 (国立民族学博物館・准教授)

池上甲一 (近畿大学・教授)



フェアトレードとは、生産者や産地に利益が残らないような売り手と買い手の不公正なつながり方を是正し、特に消費側の買い方を公正なものにして、生産者の生活や産地の社会開発の水準を引き上げようとする仕組みです。森永製菓のチョコレート「1チョコ for 1スマイル」やスターバックスの「エシカルなコーヒーの日」など、大手食品産業の取り組みが日本におけるフェアトレードの認知の拡大や普及の推進力になっています。

NPO法人ACEは、この「1チョコ for 1スマイル」や自らの「しあわせへのチョコレート」プロジェクトを介して、ガーナのカカオ産地の教育環境を整備し、児童労働をなくそうと努めています。産地においては、どのような成果と課題が生じているのでしょうか。また、タンザニアのキリマンジャロ山麓のコーヒー産地では、フェアトレードは生産者と消費者のつながり方をどのように変えたのでしょうか。それを促進したり、阻害したりする産地の状況（社会制度や伝統、文化、価値観など）は、いかなるものなのでしょうか。

現地の貧困問題や低開発問題などを解決しようとする生産者の力。それを補強するフェアトレードの力。そのフェアトレードを促進する産地の力。この講演会では、そのような力を、それらの限界とともに明らかにしたいと考えています。